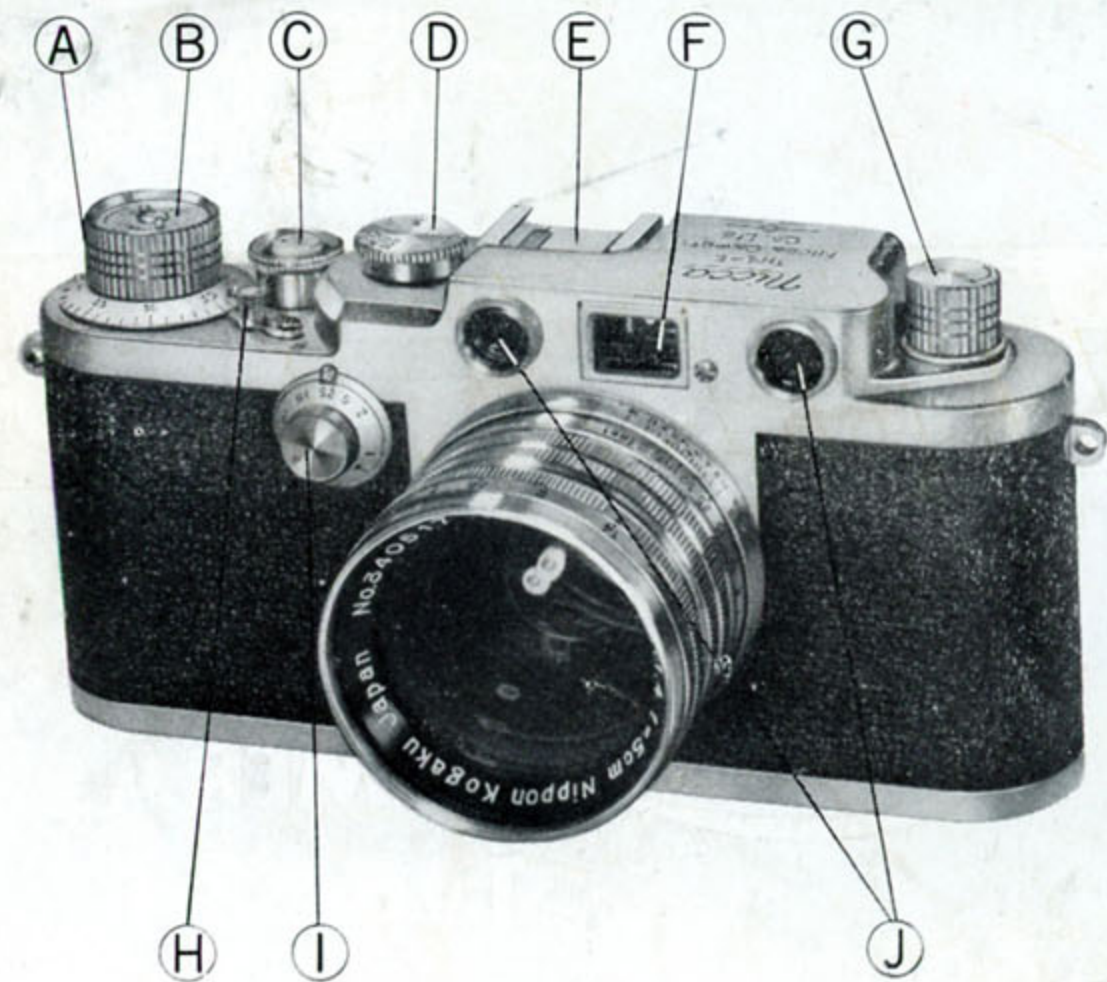


ニッカカメラ 使用法

Nicca

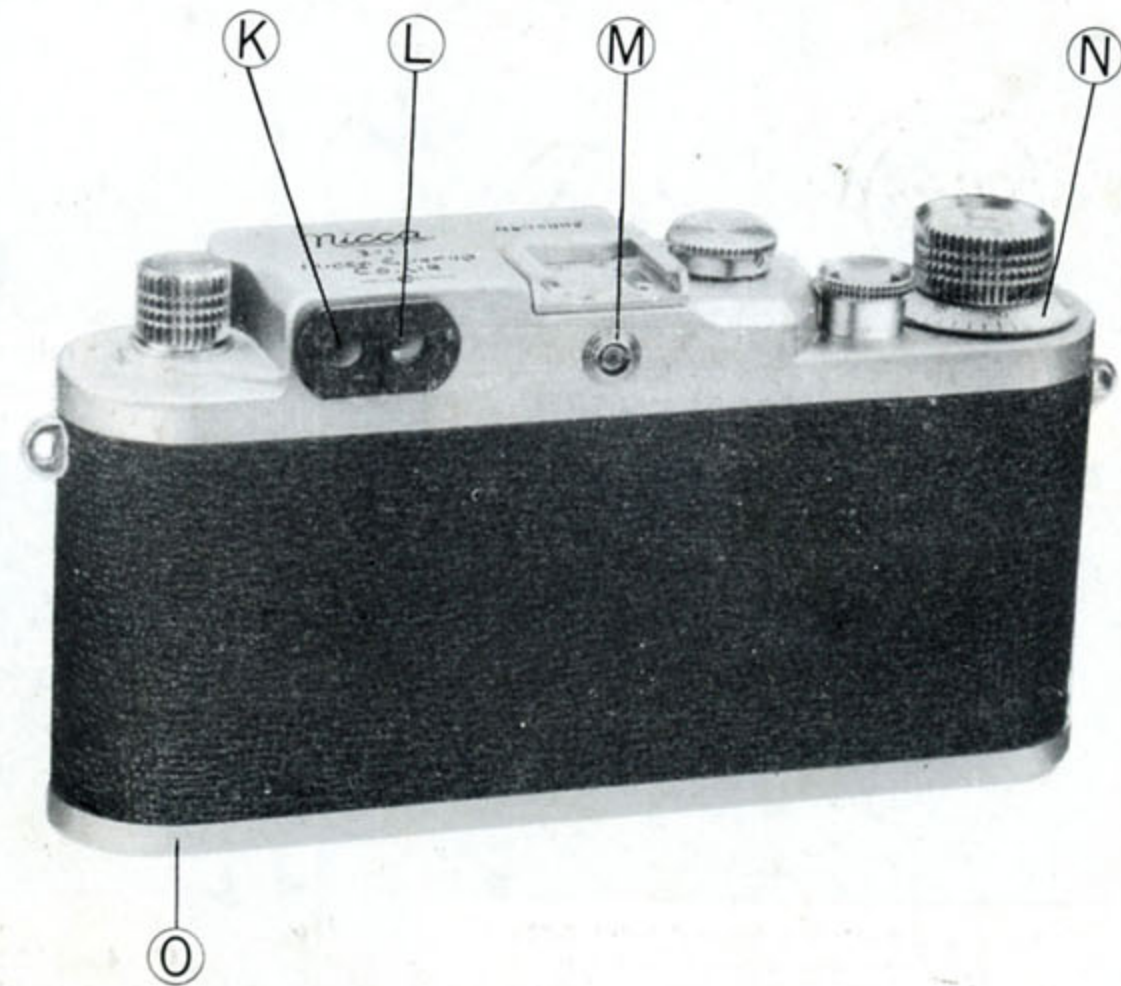
CAMERA

Type 3-F



カメラ各部の名称

- | | |
|---------------|----------------|
| A 捲上つまみ | |
| B フィルムインジケータ | 距離計接眼レンズ |
| C シャッター釦 | |
| D 高速シャッターダイヤル | L ファインダー接眼レンズ |
| E アクセサリー挿入座金 | M シンクロナイザーソケット |
| F ファインダー対物レンズ | N 駒数計 (露出回数計) |
| G フィルム捲戻しつまみ | |
| H 捲戻しレバー | O 底蓋 |
| I 低速シャッターダイヤル | |
| J 距離計対物レンズ | |





1

(1) 先づレンズキャップを取りはずします。
これは忘れ勝ちですから特に御注意願
います。



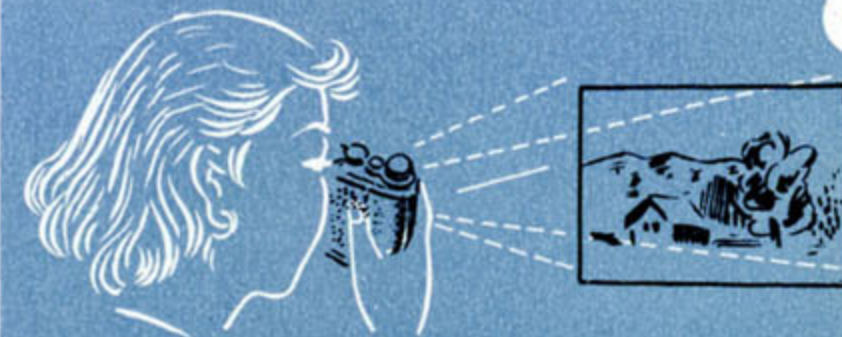
3

(3) 距離計で焦点を合わせます。
二つの像が合致した所が焦点の合った
所です。



2

(2) シャッター速度を考えに入れながら露
出計か露出表によってレンズの絞りを
決めます。



4

(4) 眼をファインダーに移して構図を決め
ます。



6

(6) シャッターダイヤルの目盛を決めます。



5

(5) 捲上げつまみを捲いてシャッターを
かけます。



7

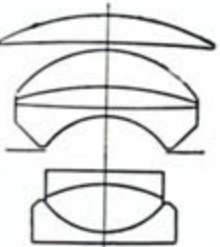
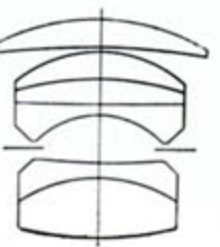
(7) 低速シャッターを使用する時には、この
シャッターダイヤルを使用します。



8

(8) 静かにシャッター鉤を押して下さい。

標準レンズは世界的に名声ある日本光学工業株式会社製ニッコールレンズで焦点距離はいづれも50耗ですが明るさに次の二種類があります。

f 1.4			世界で最も明るい実用鏡玉の一つでありまして、その鮮鋭さは諸外国の写真記者を驚倒せしめた事でも解かります。7枚構成のゾナー型レンズで室内、夜間、天然色撮影等に向く高級レンズです。絞りはクリック式、最小絞 f/16 撮影最短距離 1.5呎
f 2			6枚構成のゾナー型レンズで手頃で使い易い万能鏡玉です。色収差も極めてよく補正されて居りますので天然色撮影にも素晴らしい効果をあげられます。絞りはクリック式、最小絞 f/16 撮影最短距離 1.5呎

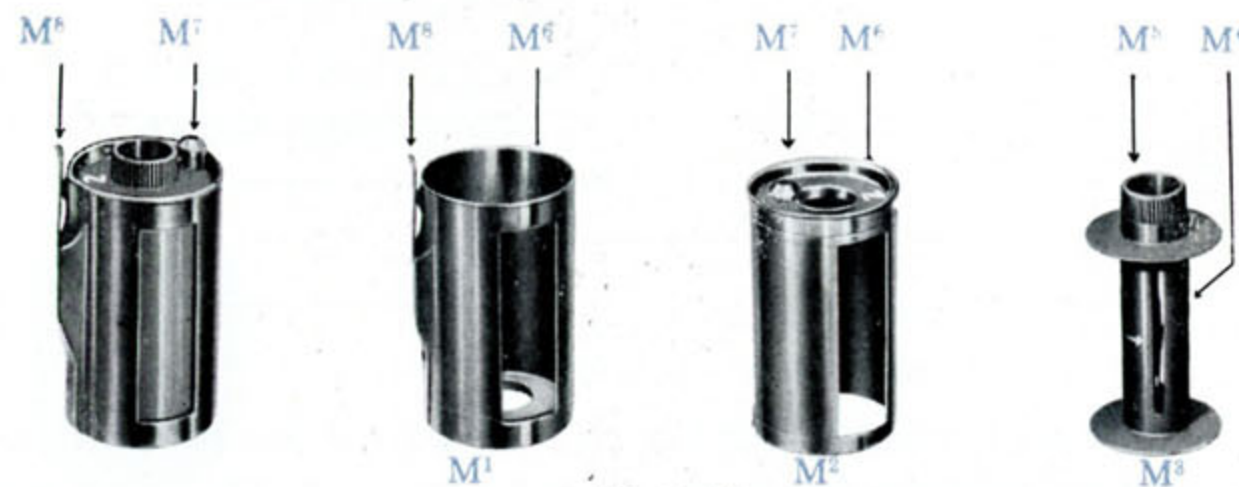


第 1 図

生フィルムの取扱は総て完全な暗室内で行うのは言うまでもありません。長尺のフィルムを切断して使用するには必ず1.6米即ち5.3呎（これで36枚撮れます）以下に切断し、その両端を正確に第1図の様に截断しなければなりません。暗室装填用として発売されている35耗フィルムは20枚又は36枚撮りで両端はこの様に切断してあります。

注意

フィルムを捲付ける時、エマルジョン側（膜面）に手を触れない様に注意して下さい。触れるとシミを作る原因となります。



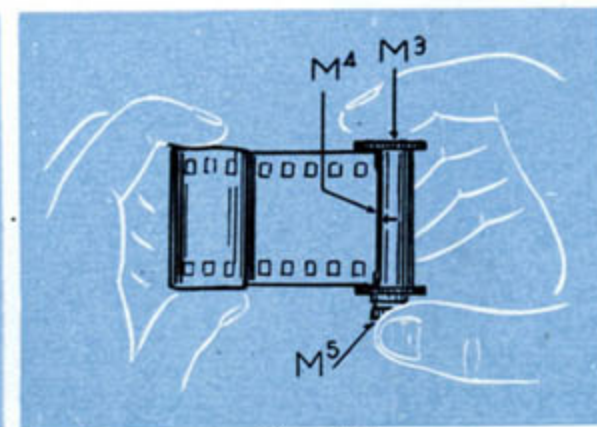
第 2 図

フィルムマガジンは第2図の様に三つの部分から出来ています。M¹ は外筒、M² は内筒、M³ はフィルム捲軸で間隙 M⁴ があります。M⁵ は捲軸頭部、M⁶ は窓、M⁷ は内筒の頭、M⁸ は内筒が不用意に抜け出さないためのパネです。

(I) 閉ざされたマガジンを開いてフィルムの捲軸を取出すには先ず左手でマガジンを持ち、パネ M⁸ を左手の指先で持上げながら、右手の指で内筒の頭 M⁷ をつまみ、内筒を左に止まるところまで半廻転すると、外筒と内筒の窓が一致します。そこでフィルム捲軸の頭 M⁵ を指でつまんで引上げると内筒及び捲軸共に外筒から取り出せます。(第3図)



第 3 図

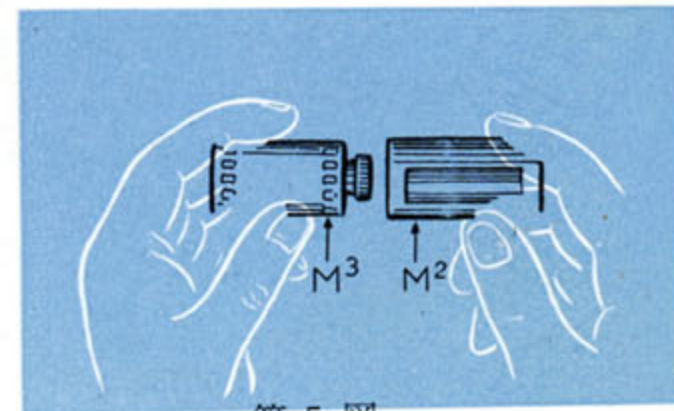


第 4 図

脱け出さない事を確かめた後、軸を彫刻された矢印の方向にまわして膜面が内側になる様に固目に捲付けます。

捲軸 M³ のつまみとフィルム切断部 (A) との関係は第1図の様でなくてはなりません。膜面に手や指がふれるとシミを作る原因になります。

(IV) この捲軸を頭の方から内筒に挿入します。この時、フィルムの端が窓から容易に摘み出せる位置に向けて挿入すると便利です。(この場合フィルムの端を数耗だけ外方に折り曲げておくとつまむのに楽です)。(第5図)



第 5 図

(II) 三つに分解したマガジンの三部分を順序よくならべ、暗黒又は安全灯にします。

(III) フィルムの尖った方を捲軸の間隙 M⁴ の巾の広い方に差し込み引張って



第6図

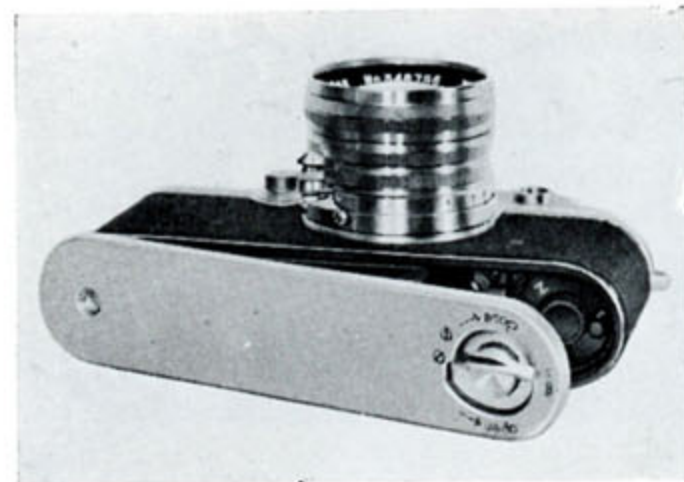
(VIII) マガジンからフィルムを取出すのは暗室を要しますから多数の撮影を行う時はフィルムを入れた相当数のマガジンを御用意願います。

(IX) マガジンのスプールからフィルムを取る時は無理に引かずにスプールの近くでフィルムを鋏で切り、差込んだ反対側から引き抜いて下さい。

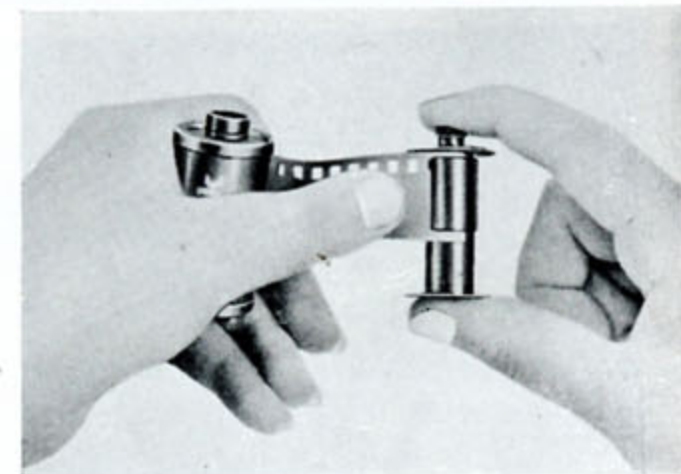


第7図

- (V) この内筒を窓を合わせて外筒に入れ(第6図)窓からフィルムの端をつまみ5糎位引出します。
- (VI) 内筒の頭 M^r をつまんで内筒の止まるまで右に半廻転させて窓を閉じます。(第7図)
- (VII) フィルムを装填したマガジンはつとめて強光の直射を避け、出来ればマガジンケースの中に入れるか黒い紙、又は銀紙で包んで下さい。

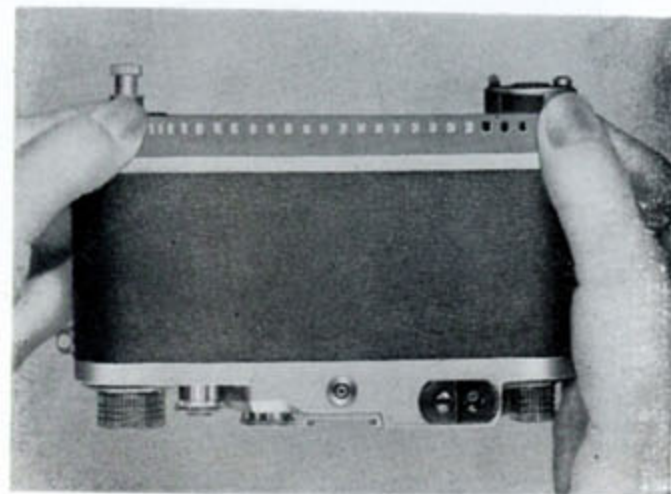


第8図



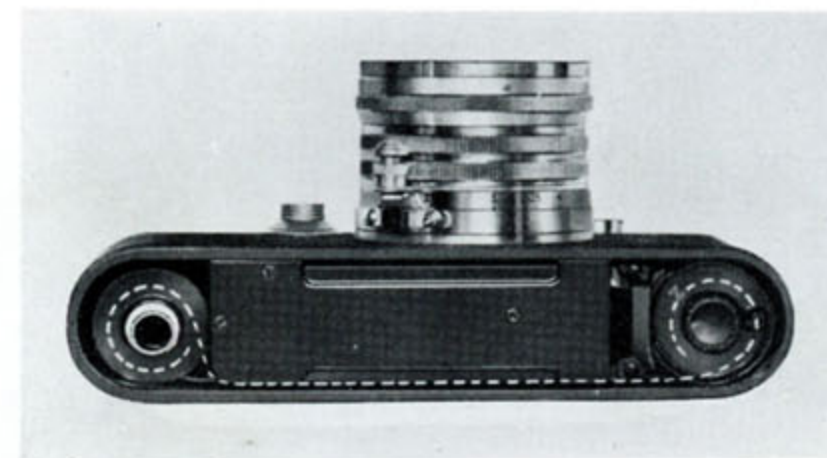
第9図

- (I) 先ずカメラの捲戻しレバーが(H)がA(Advance 前進)の位置にあるかどうか確めた後、捲上つまみ(A)をを矢印の方向に止まる迄捲いてシャッター鉤を押しておきます。次にカメラを逆さに持って底にある開閉つまみを起し矢印を Close から Open 迄半廻転させて(第8図)持上げると底蓋が外れます。
- (II) 捲取スプールを抜取って其の中心軸のパネ板の下にマガジン(又はパトローネ)に装填されたフィルムの先端部(第1図A部)を膜面が外側になる様に固く挿み込ます。この時のフィルムの横端がスプールの溝にピッタリ当る様にして下さい。(第9図)



第 10 図

(Ⅲ) 第10図の様に右手にマガジンを、左手にスプールを持って丁度カメラに入るだけフィルムを引出して左右が傾かない様に注意し乍らカメラの底に当る迄しっかり収めます。この場合フィルムの膜面がレンズ側にきているかどうか御注意下さい。フィルムの進路は第11図の点線の様になります。



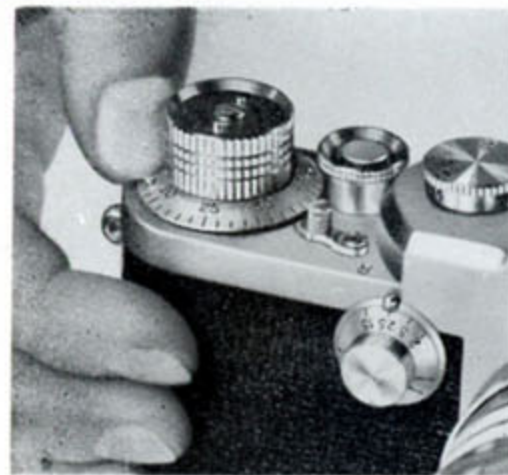
第 11 図



第 12 図

- (Ⅳ) 捲上つまみを少し捲いて見てスプロケットの歯にフィルムの孔が噛み合っているかどうか充分確認して下さい。(第12図)
- (Ⅴ) 底蓋の一端を掛金にかけてから蓋をしめて開閉つまみを Open から Close に戻します。
- (Ⅵ) 捲上つまみを一回捲いてシャッター鉤を押します。この操作をもう一回繰返しますと最初に装填する際に露光したフィルムの部分が捲取られて未感光の部分が丁度撮影の位置に来ている事になります。この操作中にフィルムが正しく送られていれば捲戻つまみが矢印と反対方向に廻転します。

駒数計・フィルムの捲上とインジケータ



第 13 図



第 14 図



第 15 図

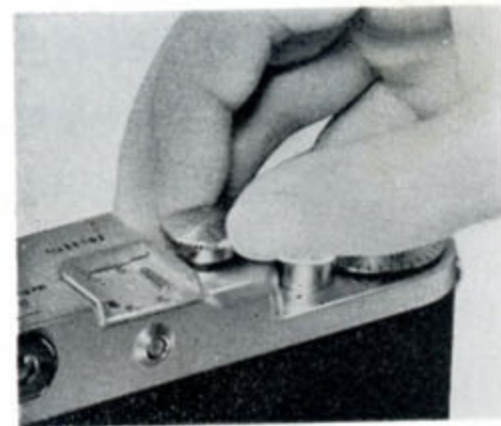
- (I) 第13図の様に駒数計の突起に指か爪をかけて捲上つまみの矢印と反対の方向に廻わして0目盛を指標に合せます。これを忘れると撮影した枚数が解らなくなります。
- (II) 装填されているフィルムの種類を表示するために捲上つまみ上にインジケータが取付けられています。盤上の小突起に爪をかけて装填されたフィルムの種類の所え指標を合わせておきます。(第15図)
- (III) 捲上つまみを右方向に止まるまで充分に廻転させます。この操作によってフィルムが一駒送られると同時にシャッター機構を捲上げた状態に致します。この機構のため、二重撮しをする心配はありませんが、特に二重撮し(又は多重撮し)をしたい時は別項の様にすれば出来ます。

高速シャッターダイヤル

- (I) 高速シャッター(1/500~1/25秒)を使用する場合には先ず低速シャッターダイヤル(I)を25の所に置き、高速シャッターダイヤルを指で摘み、少し持上げてから希望の速度目盛を指標に合わせて落込ませます。(第16図)
- (II) このダイヤルにあるBのマークはバルブ露出をする場合に用いられます。目盛をBにおけばシャッターはシャッター釦を押している間だけ開き、釦を離すと閉じます。この時、スローシャッターダイヤルは25の所におきます。
- (III) ダイヤルは落込み式になっておりまして数字のある所以外では落込みません。落込みぬ儘でシャッターを切るとシャッターが傷み易いので使用しない様に御注意下さい。即ち数字と数字の中間の速度は使用出来ません。
- (IV) 捲上げない前にシャッター速度を見る時は第17図の指標の所で見れば解かります。
- (V) シャッターダイヤルを動かす操作はシャッター捲上げ前に行ってもかまいませんが成可く捲上げてから行う様に御奨め致します。

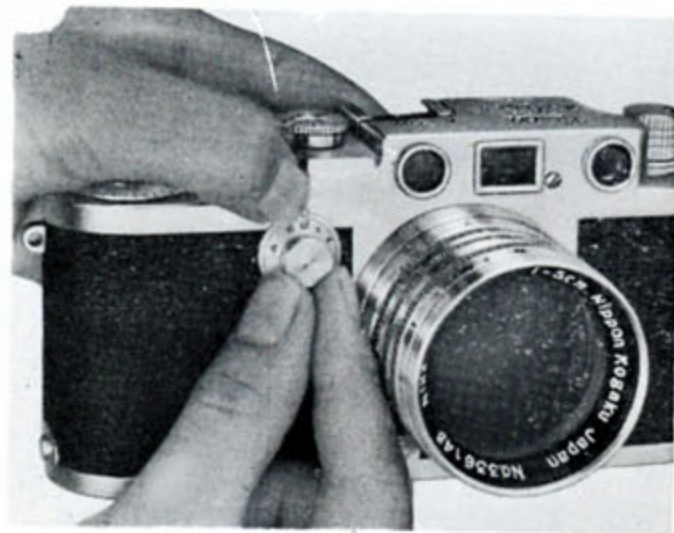
注意

シャッターを捲上げたまま、長期間放置する事はシャッタースプリングを弱める原因となりますので充分気をつけて下さい。



1/15秒から1秒までの露出とタイム撮影をする場合はこのダイヤルを使用致します。

- (I) このダイヤルを使用する場合は先ずフィルムを捲上げて高速シャッターダイヤルを25-1に合わせた後に、このダイヤルを希望する速度目盛の指標に合わせてます。
- (II) 1/25秒の所に制限装置があってここで止まります。この位置から動かすにはダイヤル上部のボタンを押せば制限がはずれて動きます。
- (III) タイム露出を行う時は(I)に準じてTに合わせ、シャッター鉤を押しますとシャッターは全開し、鉤を離してもその儘になっています。閉じるにはダイヤルを静かに1秒の方向に廻わします。(第18図)



第 18 図

フォーカルプレーンシャッターを装備するカメラではレンズキャップは必需品であります。それはシャッターのゴム膜は熱線(赤外線の一部)を多少乍ら透過し、カブリの原因となる事と、長時間の間には膜の横端より多少、光線が入る事があるからです。それ故、撮影以外の時は成可くキャップをかぶせておく事がレンズの保護とカブリ防止の意味から重要であります。又、キャップなしで誤って太陽の方向にカメラを向けて停止すると、数秒でシャッター膜を焼き、孔をあけますから逆光線撮影の時は充分の御注意を願います。

注意

止むなくレンズキャップ無しでカメラを露出して長時間持ち歩く時は絞りを最小絞にして置くと安全ですからこの方法を御奨め致します。

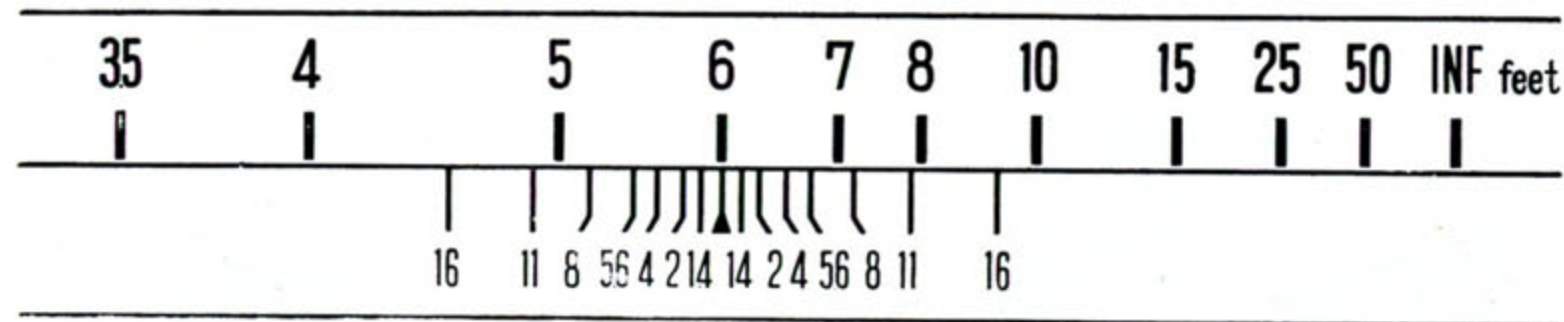


第 19 図

焦点深度の求め方

焦点深度はレンズに彫刻してある焦点深度目盛と距離目盛を読み合せて求められます。焦点合せを行ってから焦点深度目盛の二つの対になった絞記号の示す距離目盛の間が焦点深度になります。

焦点深度——とは或る一点に焦点合せをしたとき、その前後にレンズが鮮明な像を結ぶ奥行のことで前方より後方に深いものです。又絞りが小さい程深くなります。同じ絞りの場合には焦点距離の短いレンズほど深く、焦点距離の長いレンズほど浅くなります。



第 20 図

焦点深度表 (F = 50 耗)

第 1 表

混乱円の直径 0.033mm の場合

距離目盛 F	3 呎	6 呎	12 呎	30 呎	50 呎
1.4	2'11½" ~ 3'½"	5'10" ~ 6'2¼"	11'4" ~ 12'9"	25'11" ~ 35'7"	40' ~ 230'
2	2'11¼" ~ 3'¾"	5'9" ~ 6'¾"	11' ~ 13'2"	24'6" ~ 38'9"	36' ~ 350'
4	2'10¾" ~ 3'1½"	5'6½" ~ 6'6½"	10'3" ~ 14'7"	20'9" ~ 55'	29' ~ ∞
5.6	2'10¼" ~ 3'2"	5'4½" ~ 6'9½"	9'8" ~ 15'11"	18'5" ~ 82'	24' ~ ∞
8	2'9½" ~ 3'3"	5'1¾" ~ 7'2½"	8'11" ~ 18'6"	15'10" ~ 310'	20' ~ ∞
11	2'8½" ~ 3'¾"	4'10½" ~ 7'9¼"	8'1" ~ 23'5"	13'5" ~ ∞	16' ~ ∞
16	2'7¼" ~ 3'5¼"	4'6" ~ 9'1"	7'1" ~ 41"	10'10" ~ ∞	13' ~ ∞



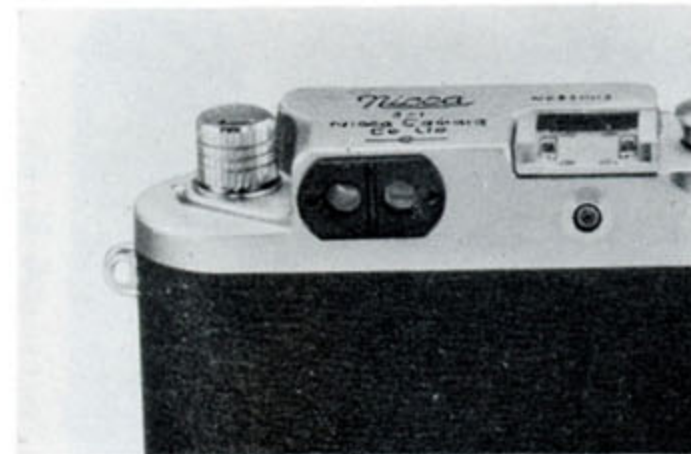
第 21 図



第 22 図

(I) 焦点の調節は第21図に示す様に右手でカメラの一方を握り、人差指の先をシャッター鉤の上に軽くのせ、左手でカメラの他の一方を支え乍ら人差指でレンズの調整レバーを廻転させて行います。無限遠(∞)の位置ではこのレバーは固定する様になっておりますから無限遠位置より動かす時はレバーの尖端のボタンを押してから動かして下さい。

(II) 距離計の接眼窓をのぞいて目標を見ると、第22図左の様に二重像が見えます。レンズの焦点調整レバーを動かすと、この二重像が近寄ったり離れたりますから両者が完全に一致する様



第 23 図

注意

カメラとレンズ番号を記録しておく事をお奨め致します。これはカメラやレンズを紛失された時に役立つ事があるからです。又、保証票も紛失されぬ様に保存して下さい。

ニッカカメラの一つの特長は附属品なしで1.5呎までの近接撮影が出来る事です。レンズ鏡胴を廻らし、遠距離目盛の方から近距離目盛の方にもって行くと3.5呎の近辺で抵抗を感じます。更に少し力を加えて同方向に押すと動き始めて1.5呎の目盛まで廻ります。3.5呎未満の目盛は赤字で記入されていますがこの部分では距離計は連動致しません。それ故、この距離(3.5呎-1.5呎)を撮影する時はフィルム面(第24図のマーク)から被写体までの距離を測ってその距離をレンズ鏡胴の目盛に置いて下さい。

第 2 表

3.5 呎以下の撮影範囲は次表の通りです。

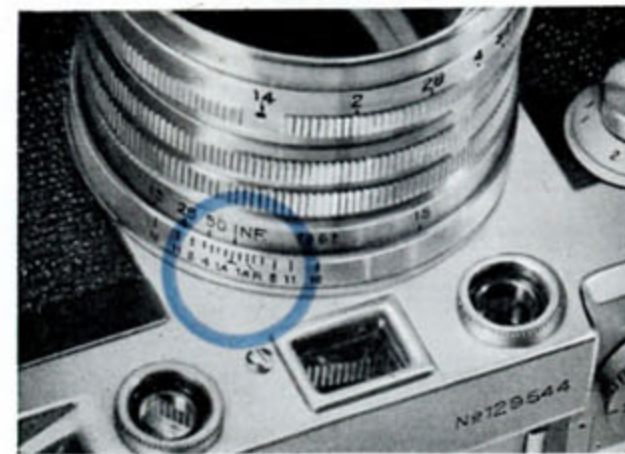
距 離	1.5'	1.75'	2.0'	2.25'	2.5'	2.75'	3'	3.5'
面 積	$6\frac{5}{16} \times 9\frac{1}{2}$	$7\frac{11}{16} \times 11\frac{3}{8}$	$9\frac{3}{16} \times 13\frac{13}{16}$	$10\frac{5}{8} \times 15\frac{7}{8}$	$12'' \times 18''$	$13\frac{5}{16} \times 20''$	$14\frac{11}{16} \times 22''$	$17\frac{13}{16} \times 26\frac{11}{16}$



第 24 図

フィルム位置マーク

すべてのニッコールレンズには距離指標の他にRと記入した第二の指標がついています。この指標は赤外線撮影、即ち赤外線フィルムと赤外線フィルターを併用した際に使用するもので、先ず普通の撮影の要領により被写体までの距離を測定して実際の距離を知り、その距離をRの指標に合わせれば(即ち通常より鏡胴を少し延ばす)赤外線撮影においても正しい焦点が得られます。これは赤外線と可視光線ではガラスの屈折率が違うのでこの両者の焦点面に幾分のズレがあるため、これを矯正する手段です。

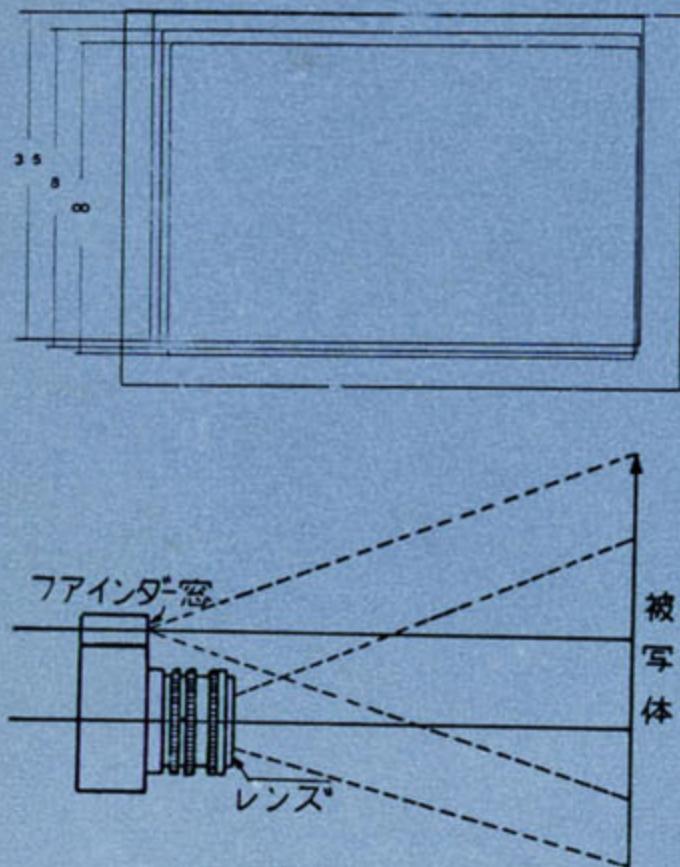


第 25 図

レンズに対する注意

レンズは分解なさぬこと。もし何か障害が生じたならば販売店を通じ総代理店又は当社へ御相談下さい。

パララックス (視差)



第 26 図

ファインダーの位置とレンズ位置が違うので、実際にカメラレンズで映写される視野とファインダーで見られる視野とは差異を生じます。この差の事を“パララックス”と言います。無限遠の時は同一視野（即ちパララックス無し）ですが12呎以下位の近距離になると無視出来なくなります。左右方向は大した事ありませんが上下は相当量になるのでパララックス匡正器付のユニバーサルファインダーを使用するか又レンズとファインダーの取付寸法（上下29耗，左右9耗）だけズレた所をねらって下さい。即ちファインダーで多少，被写体の上方をねらって撮影すると正しく画面に入ります。

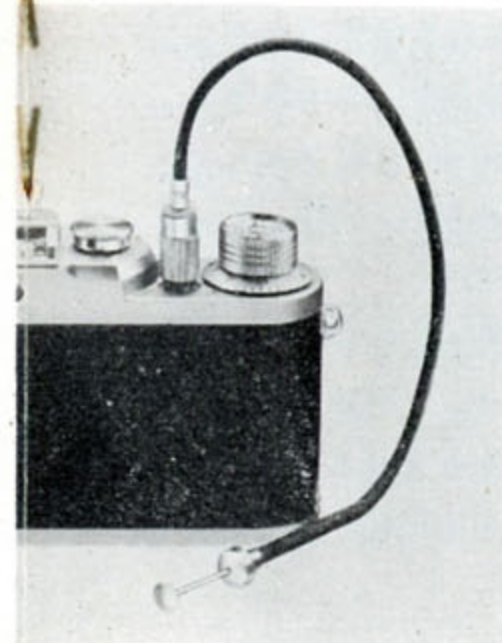
すべての準備が出来たらシャッター鉤を押せば撮影は完了する訳ですが、次の点に十分注意して下さい。

(I) 有害な振動をあたえぬ様にしっかりとカメラを支えて，なるべくユックリと鉤を押します。シャッター鉤を押すのは指先で押すより指の腹全体を保護環の上にのせ，しずかに押します。（第28図）

(II) 指が高速ダイヤルに触れると正しい露出速度が得られません。

(III) 熟練度によりますが1/50秒より長い露出を手持ちで行う事は無理で，必ず三脚か確かりした台の上で行って下さい。特に長焦点レンズ（後述）を使用した時は必ず三脚が必要です。

(IV) レリーズ（又はセルフタイマー）を使用する時は押鉤の保護環内のネジにねち込みます。（第27図）



第 27 図

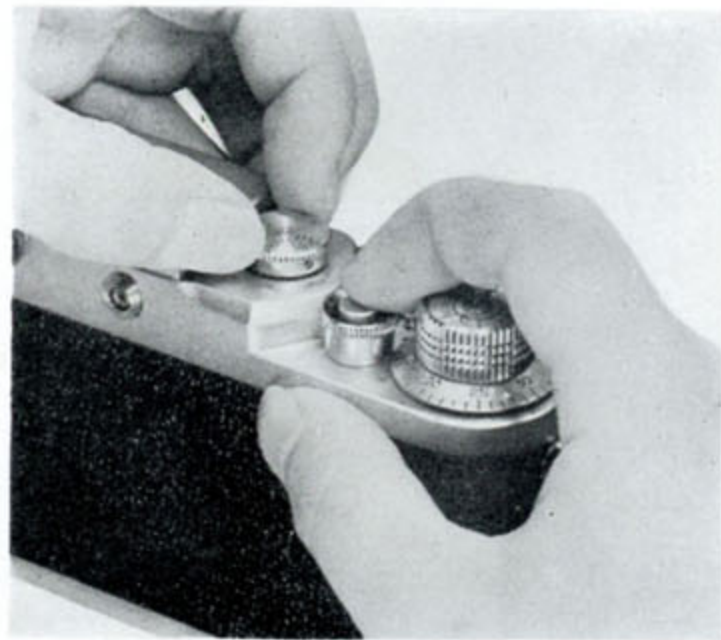


良



否

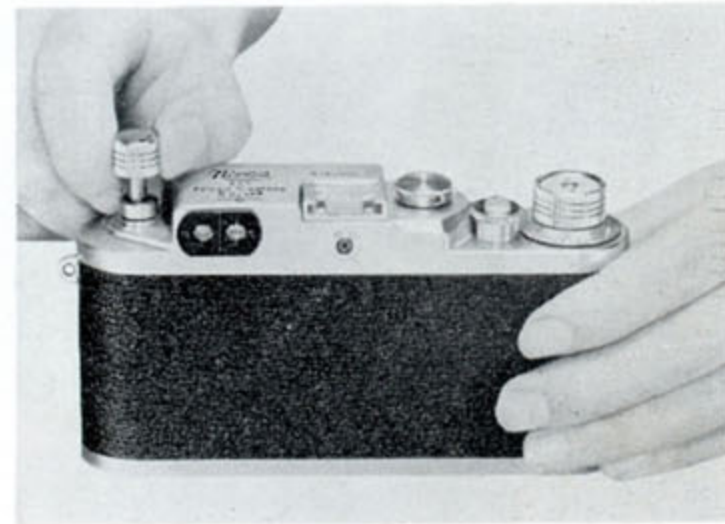
第 28 図



第 29 図

- (I) 通常の撮影の要領により一枚撮し終わりましたら第29図の様にシャッター鉤を押し下げ、そのままにしながら高速シャッターダイヤルを他の手で左方向に廻します。
- (II) 戻し終りの近くなるとカメラの中でカチリと言う小さい音がします。その時にシャッター鉤を押えていた指を静かに離しますとダイヤルはその位置で止りますからフィルムを送らないままでシャッターの捲上を完了した事になります。
- (III) この状態で又被写体をねらってシャッターを切れば二重撮しが出来ます。この時、シャッター速度を変えても差支えありません。この操作を繰返して行えば多重撮しも可能な訳です。

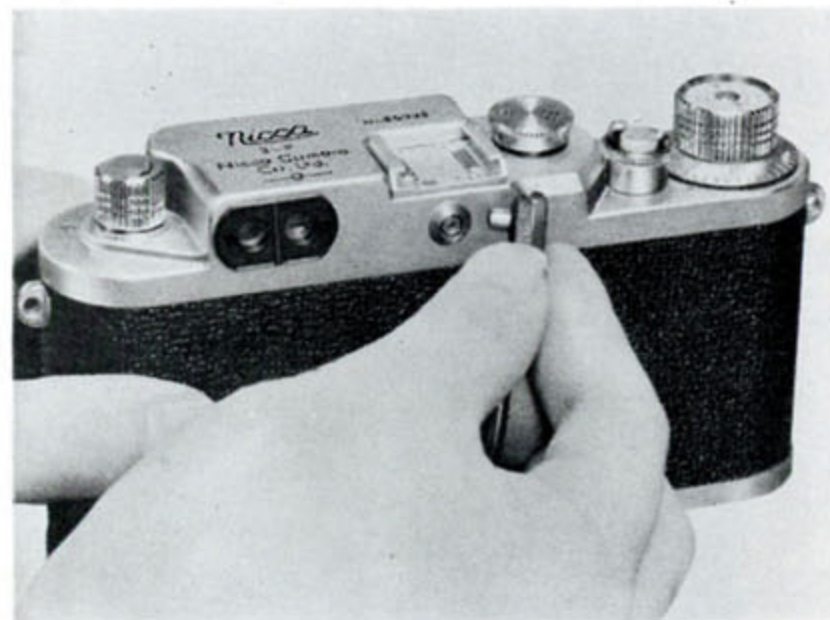
- (I) フィルムの全部の撮影が終ると捲上つまみの廻転に抵抗を感じて動かなくなります。(この場合、無理に捲上げるとフィルムがマガジンから全部脱けて暗室内でないと取出せなくなります) そうしたらレンズキャップを冠せ、今一度シャッター鉤を押します。
- (II) 捲戻しレバー(H)をAからRの位置に移し、捲戻しつまみを引上げて矢印の方向に捲くと撮影済のフィルムがマガジン(或はパトローネ)の中に捲戻されます。最後に抵抗を感じますが、かまわずに捲くと捲取スプールのパネからフィルムの端がはずれて全部マガジンの中に入ります。捲戻しをしている間、シャッター鉤が廻りますがフィルムが終ると停止します。
- (III) 再びカメラの底蓋をはずしてマガジンを取り出します。



第 30 図

フラッシュ同調装置

3-F型にはフラッシュ同調装置が内蔵されておりまして、これを使用すればシャッターを切ると同時にフラッシュバルブ又はストロボフラッシュを発光させ、完全な同調撮影が可能であります。



第 31 図

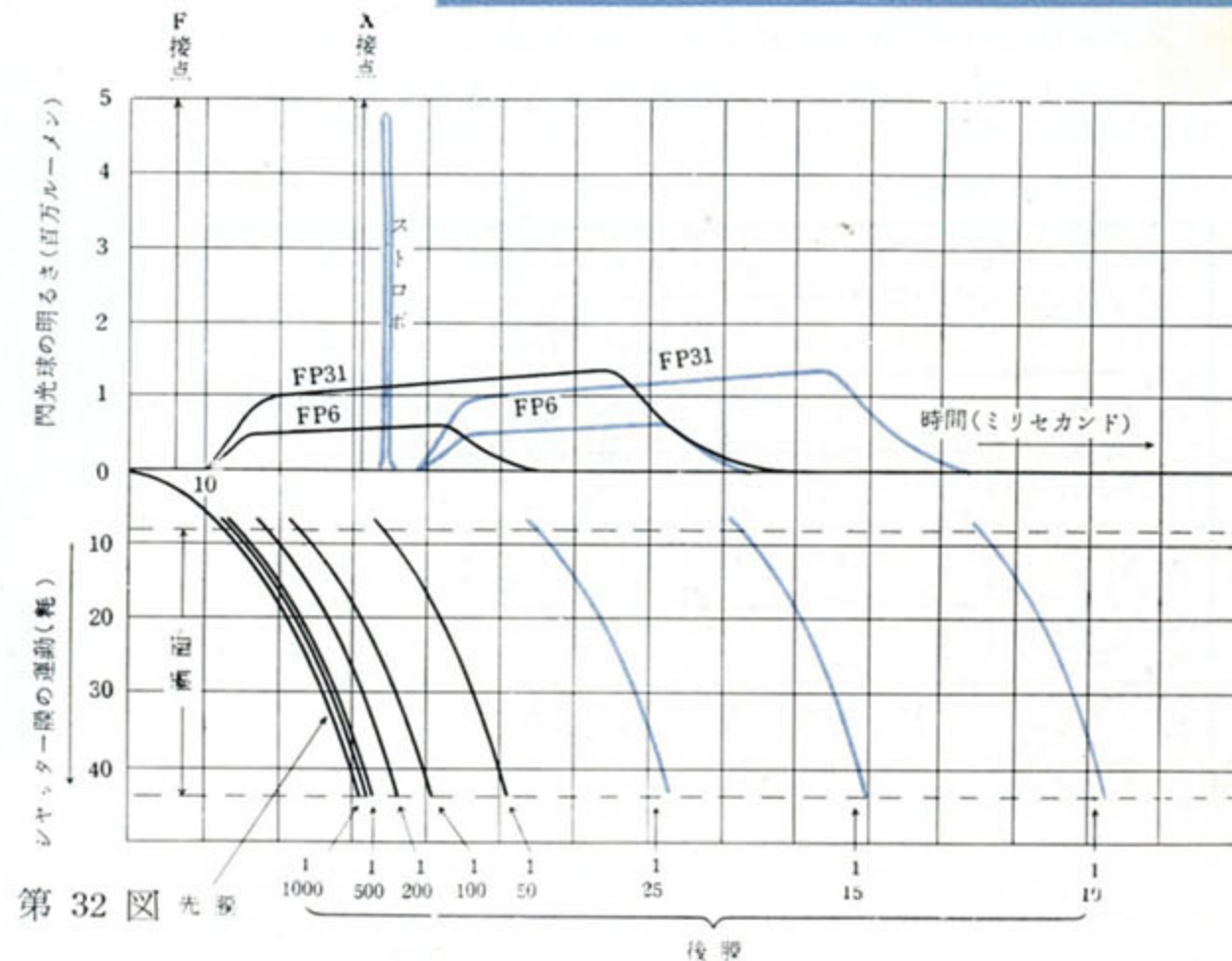
- (I) 背部のソケットにコードを差込み、フラッシュガンと連絡します。
- (II) 高速シャッターダイヤルを $1/30$ 秒にしますと自動的にX接点に切替えられます。それ故、 $1/30$ 秒より遅いシャッター速度は全部オープンフラッシュ撮影となります。
- (III) $1/30$ 秒より速いシャッターを使用される場合は必ずフォーカルプレーン用バルブ (F.P 級) を用いて下さい。
- (IV) オープンフラッシュ撮影の場合はバルブはどの級を用いても差支えありません。

注意

完全な同調撮影をするためにフラッシュガンは強力な B・C フラッシュガンを御使用下さい。特にこのカメラに最も適する様に設計されたニッカフラッシュガンを御奨め致します。

B・Cフラッシュガン以外のもの (例えば3ボルト電池使用のもの) を御使用の場合、高速シャッターでは完全同調致しません。

ニッカ3-F 同調曲線



第 32 図 先

後

同調撮影とガイドナンバーの使い方

フラッシュバルブにはガイドナンバーの表がついております。これはレンズの明るさ（f 値）とフラッシュバルブと被写体の距離を掛け合わせた数値を表わしているので使用フィルム、バルブと被写体間の距離及びシャッター速度が決まれば絞りの数値を決定出来ます。

第 3 表 〔距離（呎）× f 値〕

フィルム	バルブ	シャッター速度（秒）							
		1/1000	1/500	1/200	1/100	1/50	1/25	1/25-1	
パ ン ク ロ S.S. (A.S.A.100)	💡	40	65	100	140	190	240	250	
	⚡								65
パ ン ク ロ S. (A.S.A.50)	💡	30	45	70	100	135	170	180	
	⚡								45
カ ラ ー (A.S.A.10)	💡	14	20	30	45	60	75	80	
	⚡								20
バルブ 💡 — No. 6 ストロボ ⚡ — 100 ワット 秒									

(例)

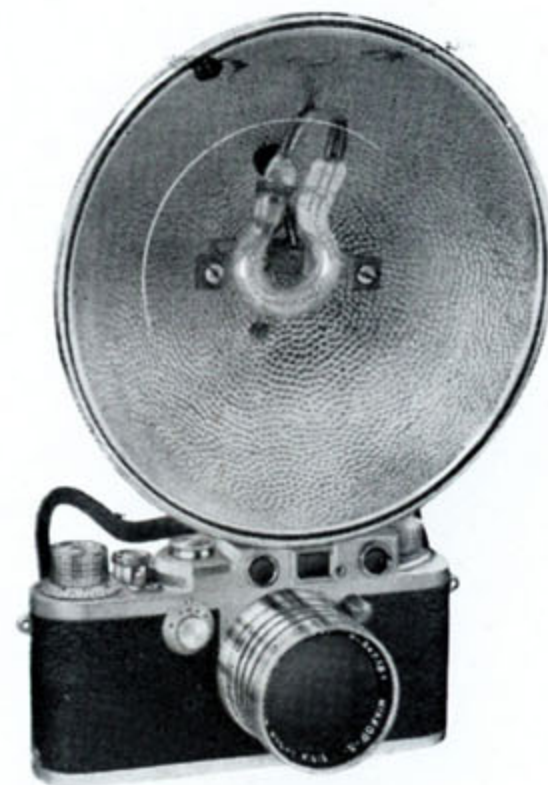
フィルム A.S.A. 50
シャッター速度 1/100 秒
フラッシュバルブ No. 6
距離（フラッシュ
バルブから被写体） 10呎
ガイドナンバー
（表より） 100
ガイドナンバー/距離
 $\frac{100}{10} = 10$ （f 値）

即ち f = 10 に絞ります。

ストロボフラッシュの使い方

ストロボフラッシュ（又はエレクトロニックフラッシュとも言います）を御使用になる時は先ずストロボ器についている説明書を十分に御読みにになり、その性能と使用法を修得して下さい。ストロボフラッシュの点火時間は通常、1/1000—1/10000 秒でありますのでシャッターが全開するチャンスのあるシャッター速度を御使用になる必要があります。

ニッカカメラ 3-F 型ではフラッシュ同調装置が X 接点となるのは 1/25 秒であるため、T.B. 及び 1 秒—1/2 秒の速度で使用出来ます。



第 33 図

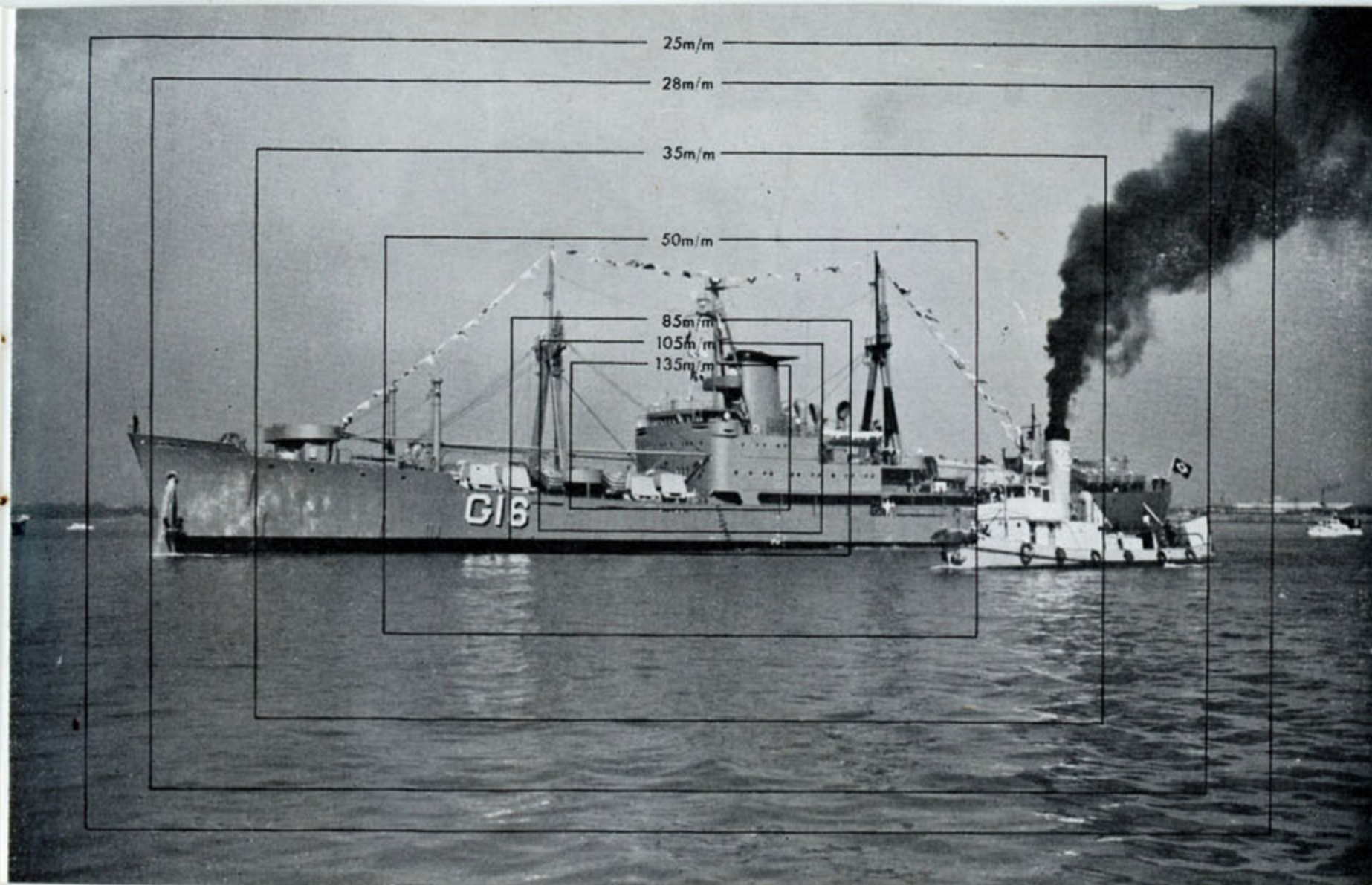
レンズ交換

ニッカカメラには多数の附属品がありますが、中でもレンズが交換出来る事が一つの特長であります。レンズはいずれも標準化されており距離計に連動致します。ライカ用ネジ式レンズのすべても使用出来、又ニッカ交換レンズもライカ型に使用出来ます。交換する時は左手でカメラをしっかりと持ち、右手親指でレンズの焦点調節レバーの金具全体を左方向に押してゆるめ、2回転半させますとはずれます。次に交換すべきレンズをねじ込みしっかりと締めます。この操作中、カメラは強い光に

あててはなりません。目下、発売している交換レンズは下記の通りでいずれもレザーケース中に納められて箱入りであります。

ニッコール標準レンズ用のレンズケースと後蓋

これらは別にお求めになることができます。レンズをはずした時にレンズを保護する役目のもので、安全のためにも是非御使用をお奨め致します。



広 角 レ ン ズ

焦点距離25耗, 28耗, 35耗の三種あります。いずれも特殊な撮影に向きますので用途によって御選定下さい。

ニッコール 25 耗 f/4 レンズ (第35図)

ツアイス社の航空写真測量用広角レンズとして有名な“トポゴン”より発展させた超広角で対称形配置のため歪曲収差が少く、縁部も十分な明るさをもっています。

画角.....80度30分 重量.....115瓦

ニッコール 28 耗 f/3.5 レンズ (第36図)

前玉より後玉が大きい特殊設計で周辺光量の増加に特に留意してあります。色収差, 鮮鋭度も優秀であります。

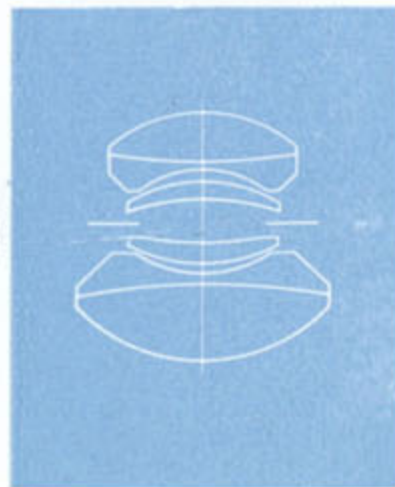
画角.....74度 重量.....145瓦



第 35 図



第 36 図



一般用広角レンズとして35耗 f/2.5, f/3.5 の二種を用意して居ります。標準レンズとして50耗の代りに使用されて居る方も多い位の万能レンズです。

画角.....62度

ニッコール 35 耗 f/2.5 レンズ (第37図)

6枚構成で色収差その他も十分に補正されて居り、カラーフィルム用としても最適であります。

重量.....160瓦

ニッコール 35 耗 f/3.5 レンズ (第38図)

定評あるテッサー型の広角レンズで安価, 且つ軽量で用途の最も広い代表的レンズです。

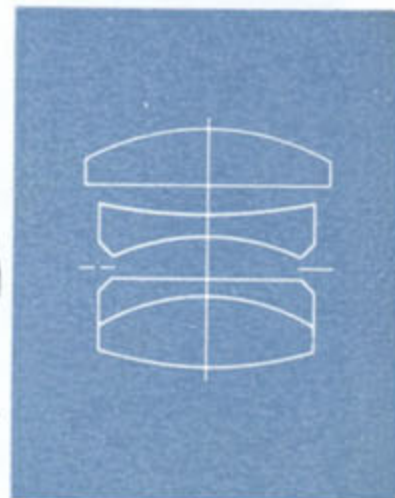
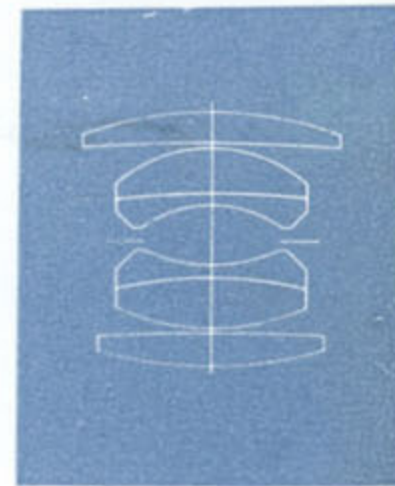
重量.....150瓦



第 37 図



第 38 図



望 遠 レ ン ズ

望遠レンズ中、85耗望遠レンズは大口徑を有するので光線不十分な場所や人像写真、舞台撮影等に最も便利であります。

画角.....28度30分

ニッコール 85 耗 f/1.5 レンズ (第39図)

重量を軽減するために主要金属部が特殊軽合金で作られ、黒塗仕上となっております。レンズフード付で直径56耗、厚さ3耗の専用フィルターが使用出来る様になっています。

重量.....610瓦 レンズフード付

ニッコール 85 耗 f/2 レンズ (第40図)

色収差、球面収差等が極めて良く補正されている一般用レンズで、望遠レンズ中、最も需要の多いものです。レンズフードにはコダックシリーズ No. VII のフィルターが合います。

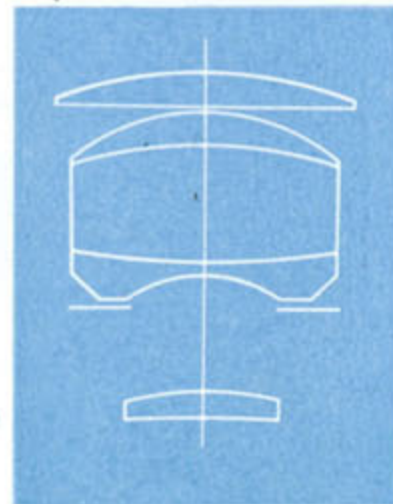
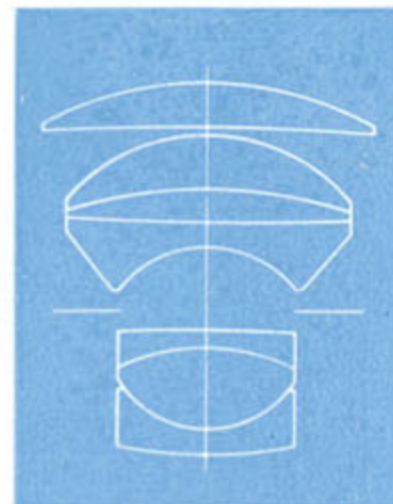
重量.....445瓦 レンズフード付



第 39 図



第 40 図



ニッコール 105 耗 f/2.5 レンズ (第41図)

最も新しくニッコール交換レンズの系列に加わった新鋭鏡玉で、85耗と135耗の中間にあって便利なレンズです。金属部は特殊軽合金製黒塗仕上で大きさの割に軽量です。レンズフードは No. VII のフィルターが合います。

画角.....23度20分 重量.....570瓦
レンズフード付



第 41 図

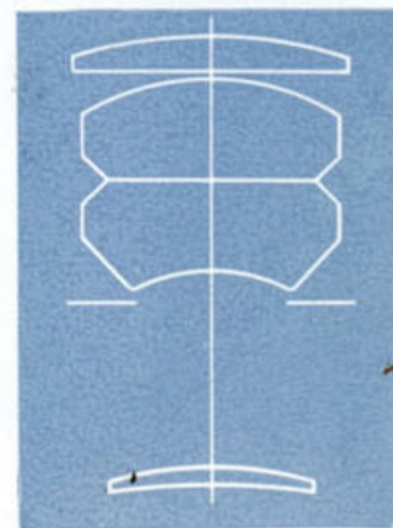
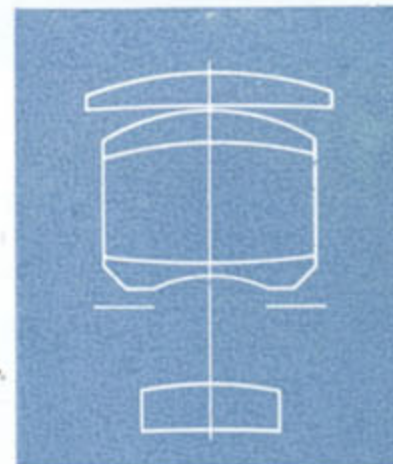
ニッコール 135 耗 f/3.5 レンズ (第42図)

実用向の長焦点レンズとして最長の焦点距離をもっています。収差は完璧に匡正され、山岳撮影や遠景の描写に素晴らしい偉力を発揮します。フードは No. VII 用です。

画角.....18度 重量.....565瓦
レンズフード付

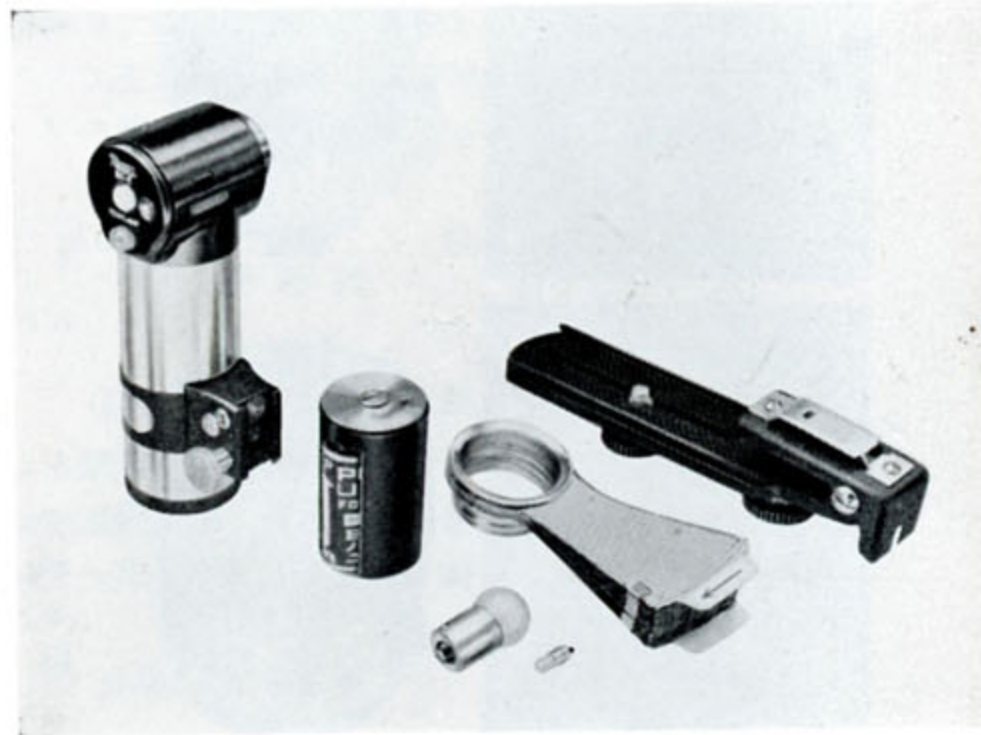


第 42 図



フラッシュガン

自動充電式ニッカフラッシュユニットはニッカ用として特に設計された B・C フラッシュガンで、閃光電球をソケットに挿入すれば自動的にコンデンサーに充電され、頭部にあるパイロットランプ及びテストランプにより閃光電球の良否、充電の有無、シンクロの回路の良否等の点検も容易にでき、又多灯発光及び単独発光も出来る優秀品です。



第 43 図

オッシログラフ

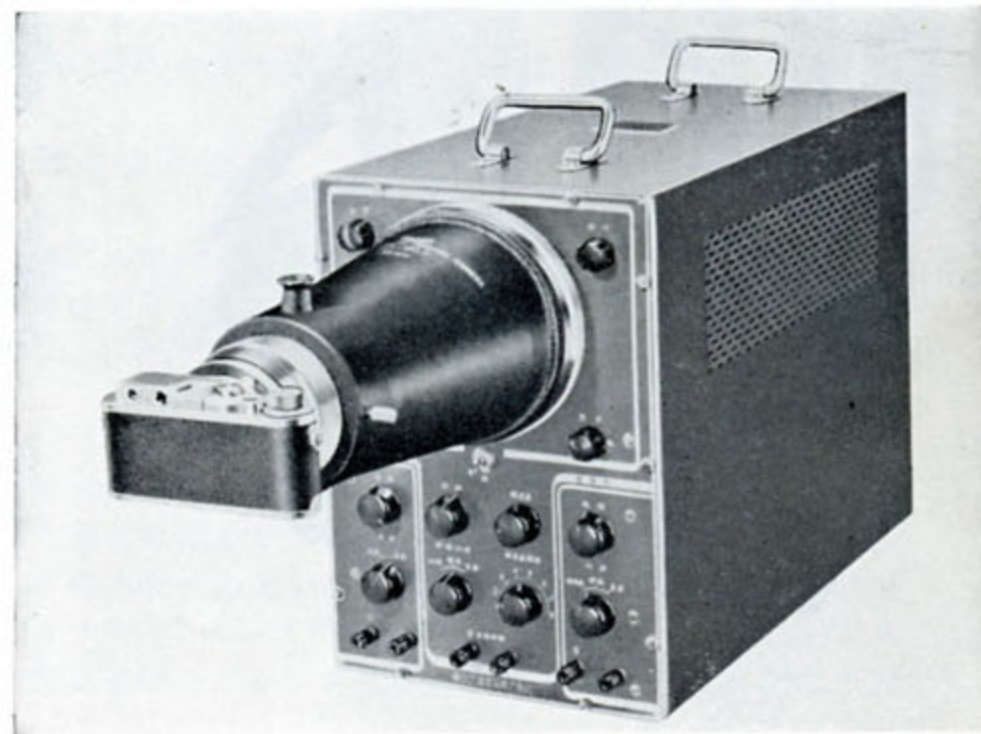
瞬時に消え去るブラウン管オッシログラフ上のデータを記録する為に此のオッシログラフ・ユニットを使用致しますと極めて簡単、且つ迅速に記録撮影する事が出来、後日の御検討に大変便利であります。

ニッカ・オッシログラフ・ユニットはニッカカメラ用として特に設計、製作致しましたので、ニッコールの無比の解像力と相俟って完全な記録が得られます。尚、ねじ込式ライカマウント型の他の35判カメラにも使用出来ます。

工場、研究所、学校等における研究の必需品として御利用を御奨め致します。
(別冊の使用書あり)

NT-120A 型

使用ブラウン管の直径.....120耗
撮影縮少率.....3.6



第 44 図



第 45 図

速写ケースは茶褐色のボックス皮を使用し、附属品として肩掛用補助ストラップがついております。

此のケースは全部接着剤により接着され、糸を使用しておりません。しかも外力に対しては(特にレンズ部分の突出部)充分な強度を持たせてあります。

最近、カメラをケースより出して裸で御使用する方がありますが、此れは往々にしてカメラを傷つける事がありますので、なるべくケースに入れて御使い下さる事をお奨め致します。

フィルター

フィルターの真の性能は硝子材料の内部歪、脈理、吸収率、研磨面の精度や平行度、金具への取付方法等によって非常な相違がありますので外観だけでは優秀品と不良品の判定が仲々困難であります。

優秀なニッコールレンズの性能を十分に發揮させるため、ニッカフィルターの使用を御奨め致します。

フィルター使用の際は清潔な木綿に少量の純アルコールをつけて軽く拭って、油や指紋を除去してから取付けて下さい。



第 46 図

レンズフード

撮影の時に被写体以外の部から来る光線が相当あり、特にカメラの前面に強い光源がある場合にはレンズに直射光が当り勝ちです。不必要な光線が大量にレンズに入射するとレンズ鏡胴内の反射を生じたり、フレヤーの原因となりますので、レンズフードが絶対必要となります。f/1.4, f/2 レンズ用は角型黒塗仕上でレンズ鏡胴にかぶせ式、f/3.5 用はネジ込式です。



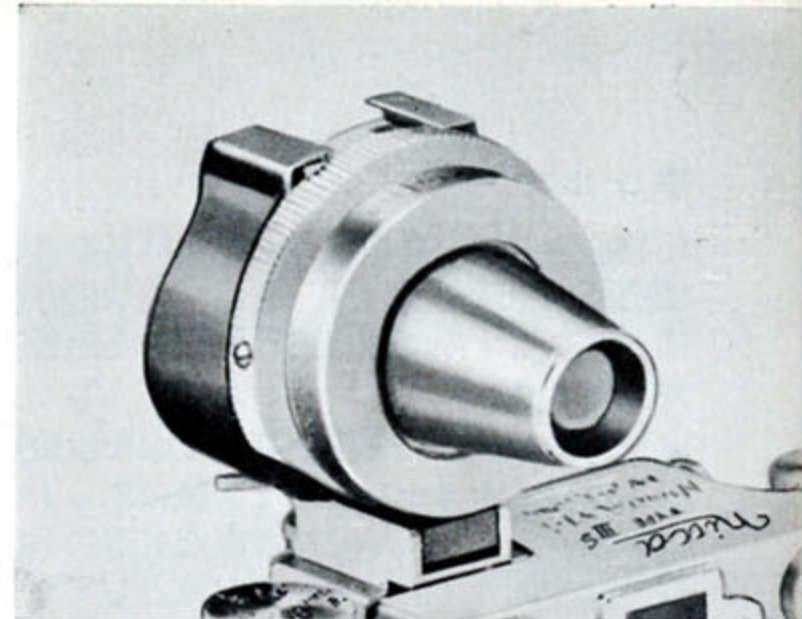
第 47 図

標準レンズ（50耗）以外のレンズを使用する時は撮影範囲が変わるのでカメラに装備されているファインダーでは間に合いません。それ故、正確な画面を決定するためユニバーサルファインダーを御使用下さい。これには二種類発売されています。

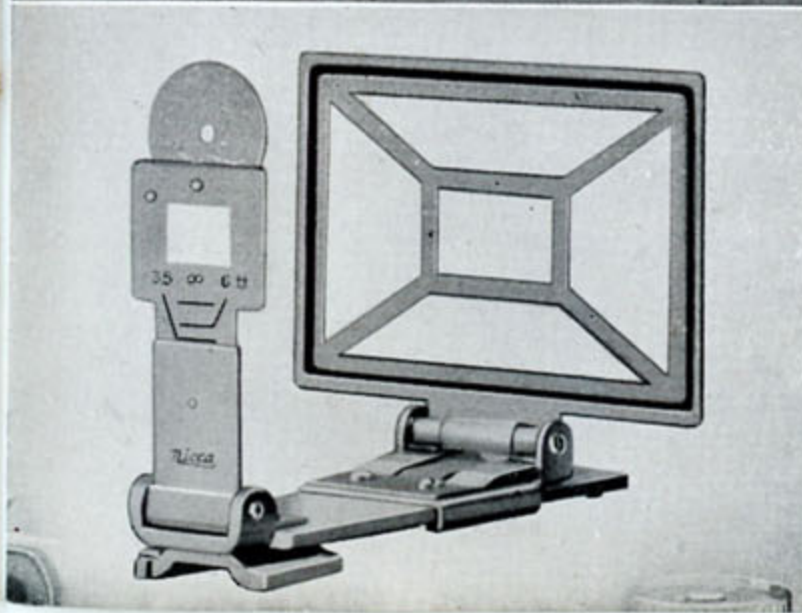
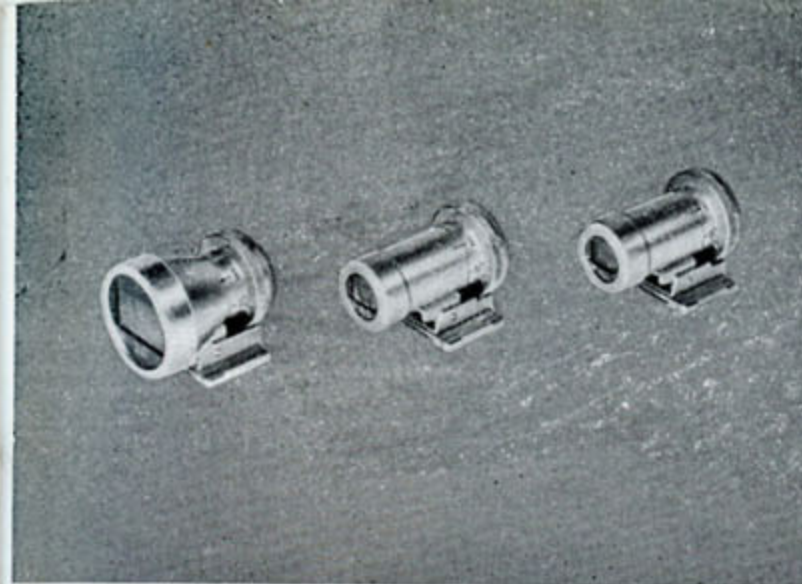
（Ⅰ） ライツ型ユニバーサルファインダー（第48図）
これは画角決定用のマスクが移動して視界が変わる型式です。135耗から35耗迄のレンズに使用できます。

（Ⅱ） 変倍式ユニバーサルファインダー（第49図）
画角決定用のマスクの大きさは一定ですが倍率が連続的に変化して画界を変える型式のもので、使用範囲は135耗から28耗レンズまでです。

第48図



第49図



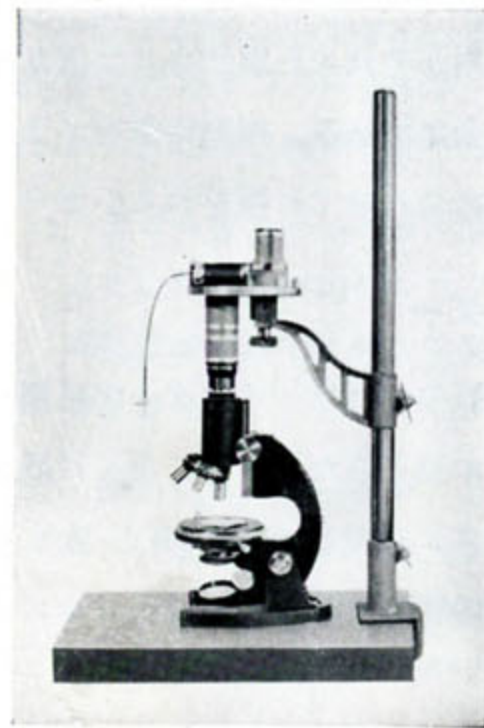
専用ファインダー

各種交換レンズの専用ファインダーで25耗から135耗迄の各レンズ用がそれぞれ製作されて居ります。アクセサリ座金に挿込み、撮影距離をパララックス矯正器の目盛に合わせて目標をねらいます。

スポーツファインダー

折畳み式的全金属製の枠形ファインダーで目標が画角内に入らない内に見えるため、速く動く目標を照準するのに便利です。パララックス矯正器付で35耗、50耗、85耗、105耗、135耗の四種のレンズに使用出来ます。

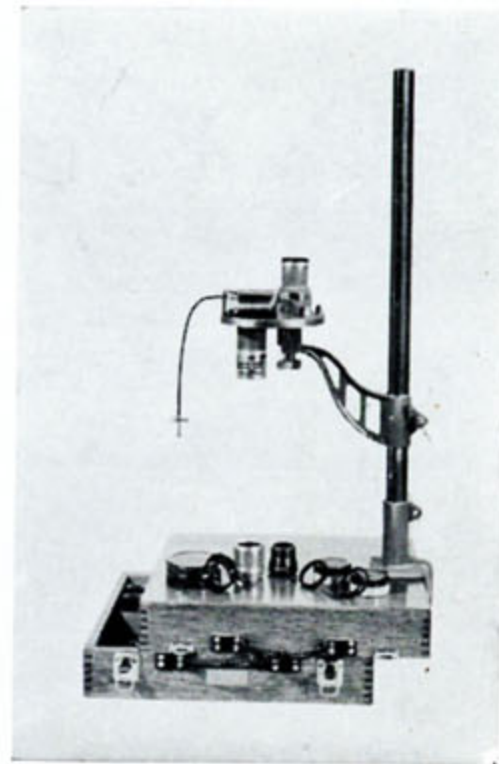
第 52 図



ニッパ複写器は複写のみならず、顕微鏡写真撮影用にも使用される万能式であります。大型であります。分解の上、小型携帯箱に収容出来るポータブル式で箱の大きさは17吋×12吋×4吋、重量は6.2kgであります。市場には四本柱式の華奢なものも発売されておりますが、正確な複写には振動しやすいため御奨め致しません。

(別冊の使用書を発行しております)

第 53 図



- (I) レンズ類の清掃は充分な注意を要します。レンズ刷毛(材料店にあります)で軽く拭い、万一、指紋などが附いた時は柔かいセーム皮又はサラシ木綿、ガーゼ等に少量の純アルコールをつけて軽く拭き取ります。木綿やハンカチは数回洗ったものが良く、反って新しいものは禁物です。特に糊のついているものは決して使用してはなりません。
- (II) カメラの細かい部分の塵埃はやわらかい刷毛で払い落とし、セーム皮又は木綿の布で拭き清めます。
- (III) 湿気はレンズにもカメラ本機にも禁物ですから成可く乾燥した場所へ保管して下さい。

注意

前にも述べた様にシャッターを捲き上げた儘、長期間保存されるのは絶対に禁物です。

附 属 品

ニ ッ カ カ メ ラ の 附 属 品

附属品はニッカ専用の品を必ず御使用願います。下記のニッカ専用附属品は凡ての点でカメラの性能を100%発揮出来る様に設計製作し十分に検査されて居るものです。

レザーケース、レンズフード類、フィルター類、ニッカ・フラッシュ・ユニット、セルフタイマー、リリース、マガジン、シンクロナイザー用コード（標準品及1米の二種）、延長用コード、接写装置、ユニバーサルファインダー類

小 売 店 の 皆 様 へ

ニッカカメラを店頭に陳列される時はなるべく日光の直射を受けない様に願います。直射が止むを得ない場合には必ずレンズキャップを掛けておいて下さい。

製 造 元 ニ ッ カ カ メ ラ 株 式 会 社

本 社 東京都大田区田園調布1~1263
電 話 池 上 (75) 2 1 9 1 (代表)
工 場 東京都大田区田園調布1~1232

国内総代理店

ひ の ま る や

東京都中央区日本橋室町4~3
電 話 日 本 橋 (24) 0 3 2 1 - 0 3 2 7

NICCA CAMERA CO., LTD.